2023SGB全国大会発表

一地域創生の新たな推進一

- 1. 国の「地方創生戦略」の課題(当初の思想が曖昧化)
- 2. 新たな戦略の提唱と手法提案(これまで 方法論の開発)
- 3. 新たな手助け(SGB等の役割)

2023. 7.16

視点

「減少社会に向き合う、この 国全体の地方創生システム・仕組み」 どうあったらよいのか 日本大学理工学部 まちづくり工学科

(一社) 地域みらい推進センター

(一社) グルーバルビジネス学会

髙村義晴

本発表のねらい

- 1. 国・地方の共同戦線による「地方創生戦略(2014〜)が、今後とも地方創生の主力となっていくものと推察。
- 2. この間(2014年~)、揺れ動く時代の変化のなかで、「戦術 (施策)」の見直し(改善・発展)は持続的に行われるものの、 「戦略」そのものの見直しは図られてきていない。実態と乖離。
- 3. また現在は、全国で同じ戦略(制度的枠組み)が採用されてきているが、状況が厳しさを増す、減少社会に向けには、新たな対応(制度上の工夫)が、望まれる。
- 4. あわせて、新たな支援策の検討が必要。
- 地域創生戦略の基本的考え方(地域の生き方の見直し)
- 寄り添い型の手助け(①知恵の創造・蓄積と提供②外とのつながり)

問題認識

国の地方創生戦略の現状

中長期にわたって持続する少子高齢化の流れ(危機感)

- ① 国:国力の低下
- ② 地方:人口減少 地域経済の縮小

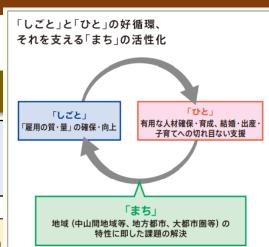
対応策

- ① 国が「地方創生戦略構想」を提唱(2014年) "まち・ひと・しごと創生"(総合)戦略
- ② それにもとづき、戦略の具体化が推進 > 全国同じ戦略のしわ寄せ
 - 国:全国的取組み、地方の取組み支援(税財政措置)
 - ・ 地方: 地方版総合戦略の策定と実施
- ③ 取組み・施策のPDCAの実施 ➤ 政策・戦略そのもののPDCAが欠如

現状

- ① 特に減少地域では、さらに現況が悪化し、歯止めがかからない。
 - ・活力が減少気味の地域 ・合併による旧町村
- ② 創生に関する取組みが、地域のなかで全体に広がらない。
- ③ 防戦一方で、時代に流され、うつむき加減
 - ・地方版総合戦略に見る危機感・切迫感

改めての全体の総点検が必要



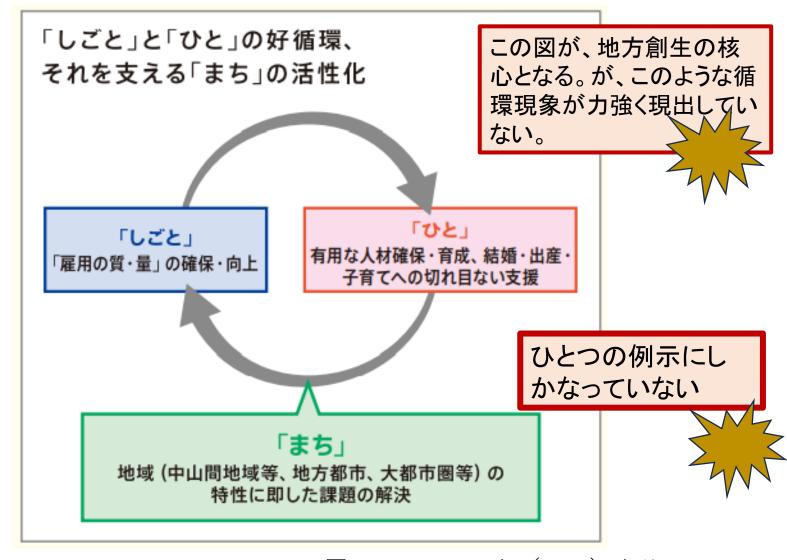
国の地方創生戦略が提案したものの意味

- a 時代の波に逆らい立ち向かうのではなく、変化に順応し得る「社会を創生」順応主義
- b そのためには、地域だけでなく、自分らの生き方・行動基準を含めて変えていく。 地域の生き方を含め変える
- c 表に現れている症状(問題)のとらわれず、その問題を生じさせている構造を治す。 構造を治す(根本療法)
- d 対応していく基本を、価値創造(経済的/情緒的/精神的)に見出す。

見直し(充実・発展)の見取り図

	現行の創生戦略	新創生戦略
戦略	まち・ひと・しごと創生総合戦略 (まち創生、ひと創生の循環的生成、 まち創生がそれを支援)	地域の状況に応じ、しごと、 ひと、まちの他に、地域の価 値創造につながる成分を選択
地域観	生命論的地域観	人間·社会論的地域観
見落と し・追加 すべきも の	2014年ごろ、「論理的推論」により制度の枠組みづくり。その後の運用をとおし、不具合・不調が出てくるのは当然。それをつ戦術・マネジメントで対応可と考えたこと。	①自己治癒力の存在と活性化 ②創生戦略プログラムの増強 ③後遺症の存在 ④創生倫理という考え方 など

現行の「地方創生戦略」の"戦略"



国のパンフレット(2015)より

現在の地方創生戦略の体系

戦略 "まち・ひと・しごと創生"戦略 しごと創生、ひと創生による循環運動とまち創生による支援 要点検領域 地 方 玉 ▶ 連携の欠如 ①戦略づくり②全国 戦略に基づく地域創 分担 国と地方が連携し、 生を具体化・実践 的施策・実施 治療法を共同開発 ③地域の取組み支援 戦術 国:戦略偏資す全波が **厚奥戦略の禁錮みの**ん > 現在の戦略の枠組 みの中での戦術工夫 戦術を改善・提案 実施 実践知(知恵)が積 ・全国的施策づくり ①国の戦略に基づく みあがらない ・施策展開 実施構想とりまとめ ・地域の取組み支援 ②実施構想の実施 管理 ・国の施策の点検・ KPIによる構想管理 国の戦略そのものの 改善 **PDCA** 点検・改善はされて 地方の取組みのま いない とめと施策への反映

要所 国の「地域創生戦略」の対する問題認識

1. 戦術・実施状況(施策)についての点検・PDCAは忠実に回されている。が、戦略の見直しはなされていない。またそれに対応する大きな戦術も開発され切れていない。

まち・ひと・しごと創生戦略 国と地方の分担・連携論

2. もともとの創生戦略の精神が矮小化されつつある。

順応主義 社会創生 地域の潜在可能性 地域の総力と知恵の結集 価値創造 地域の生き方(価値観)を見つめ直す

3. 実践知(知恵)が積みあがらない(蓄積・共有されない) このままでは、とりわけ減少社会の問題が、その中に埋没。減 少地域の斬り捨てになりかねない。

例:大津波からの暮らしの復興(さんりく委受け継がれる)

地域創生戦略(減少地域)の再構築の見取り図

領域	意味合い		
地域観	地域をどのように見るのか。また不調・不全をどの捉えるのか。 また漏れている大事な事柄、欠如する点はないのか。		
思想論	創生とは何を目指すのか。どのような状態を善いとするのか。 自らの地域社会を変えていく。自ら具備する潜在性(自己治癒力) 住民・事業者の役割・かかわり方 外部とのかかわり方(協創)		
戦略論	計画の性格(プロセス志向、動的対応) 方針 第一策(創生戦略プログラム)/そして次の策 価値創造 変化への対応力 住民・事業者と行政との協働策 国との分担と連携策 評価者・評価の仕方		
後遺症	治療によっても遺る不具合・不調 対応策(補完策、生き方・価値観を変える)		
創生倫理	各主体、住民・事業者・外部による不作為の制御		

3. 目指すもの

提案の3点セット

戦略の改善・充実

- a 新創生戦略の提案
- b 減少社会への新対応

戦略の戦術(手法)提案

- a 強化文脈
- b 共感プログラム など

手引きの提示

1 戦略要素の追加

現行:しごと、ひと、まち

新:+ 暮らし、楽しみ、誇り、絆 ※ これらの要素は独立ではなく、相互に つながり合って機能し、他の要素と一緒に なって、伝播・波及

2価値創造というものの再構築 地方創生において大事なのは、経済的 な価値だけではなく、4つの価値 それらが創造されやすく、伝播・拡散 しやすい文脈を提案

4つの強化文脈

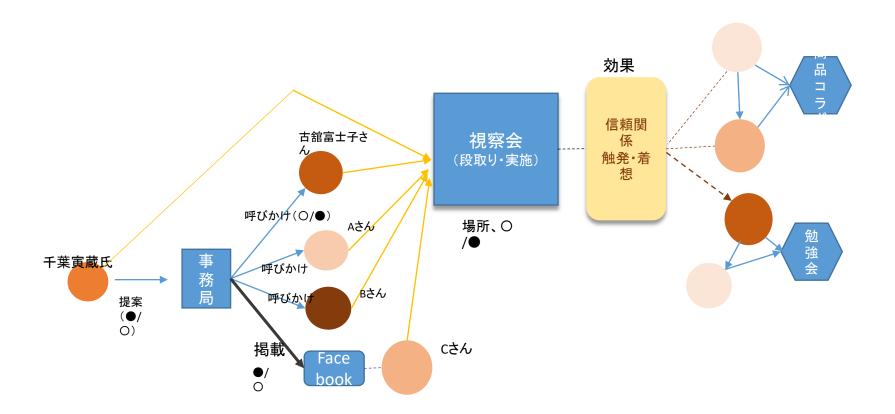
- 3 自己治癒力の活発化
- 4まち創生の意味合いと活用

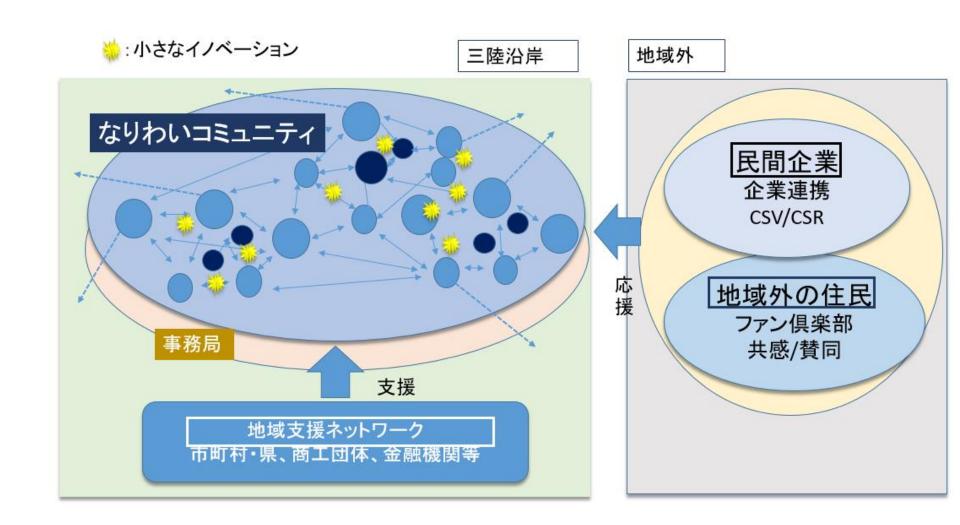
価値創造増進・拡大のための「つながり行動」

地域創生に資する価値創造の源泉は、人と人を基本とする「つながり・ ふれあい等の"つながり行動"にある」とみてよい。

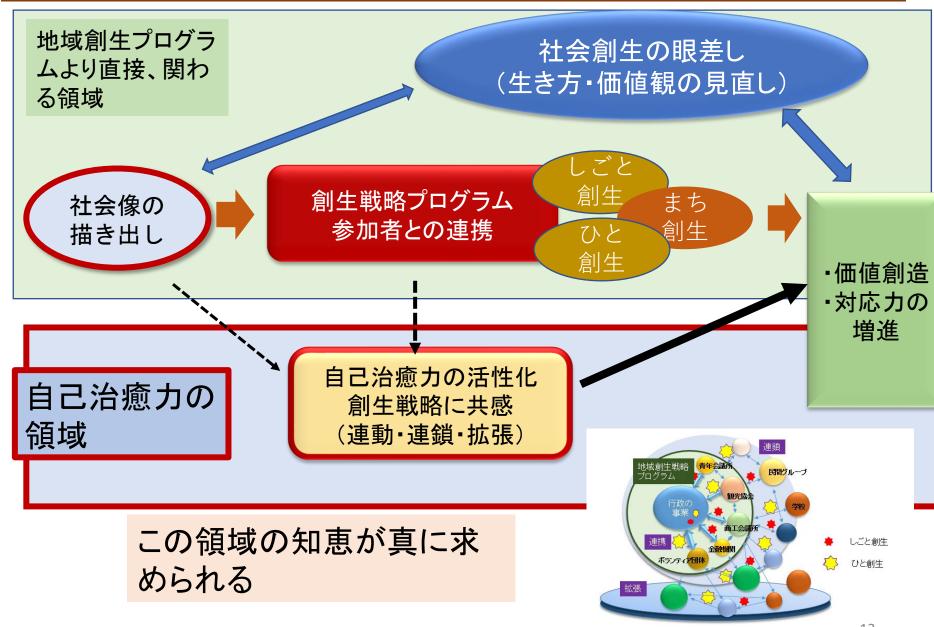
三陸沿岸における「つながり行動の例)

項目	具体的な営み・活動
①共助	困ったときの助け合い、相談・アドバイス
②切磋琢磨	刺激・触発・着想、励み、切磋琢磨
3相互補完	それぞれの経営資源の融通(ノウハウ、人
	材ネットワーク、商品等)
④連携	商品開発、商品コラボ、商材組合せ
⑤協働	勉強会、視察会、販売会、品評会、試食会
⑥共同	共同販売、共同の情報発信、PR、共同購
	入、イベント、催事・祭事
⑦他とのつながり	当該コミュニティのつながり活動に共感す
	る、地域内の多彩な関係者とのつながり
	(寺社、地元金融機関、販売店、学校な
	ど)

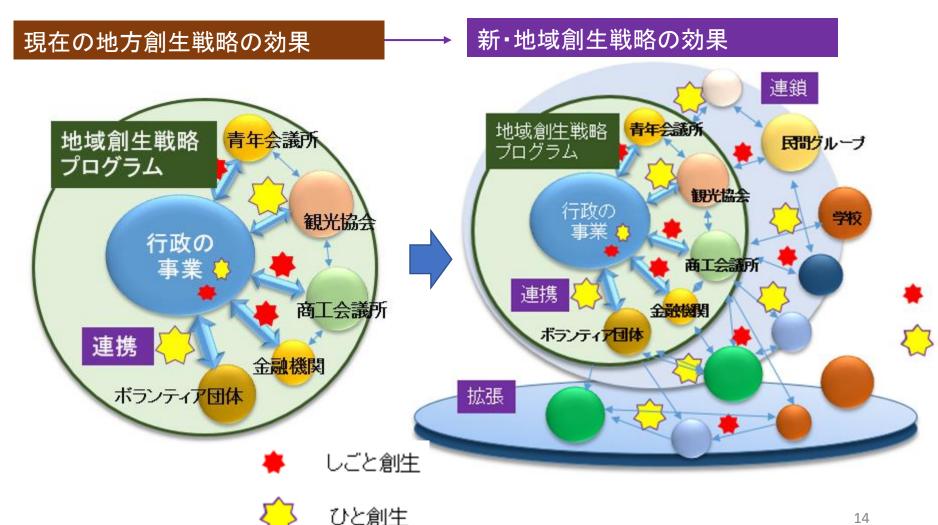


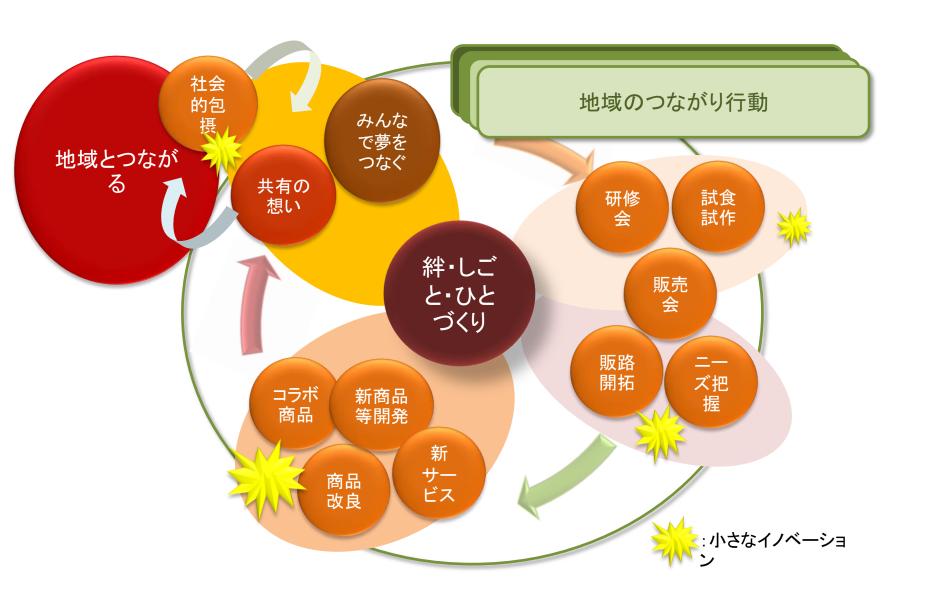


自己治癒力の活発化を取り込むことによる価値創造効果



自己治癒力の活発化を取り込むことによる価値創造効果





	主たるねらい	しごと創生	ひと創生	備考
二地域就労構想	大都市等の協 創による地域 の仕事づくり	地域に確実に 仕事が創生	大都市等の住 民が関係人口 として増加	その土地との 関わりが進化
ライフスタイ ルのブランド 化による地域 構想	_	地域 の 美意 の	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	誇り、暮らし、 楽しみ、絆
土地の美意識 を活かしたし ごとづくり構 想	土地の美意識 を も の づ く り・観光等に 反映	を語りかける	土地の美意識 に魅せられる 人が移住	その土地との 関わり、誇り、絆
な り わ い コ ミュニティ構 想	起業者・小規 模事業者がつ ながることで 事業継続を支 援	小規模事業者 の事業継続支 援		事業者仲間が できることに よる新たな創 生主体が形成

減少社会への新たな手の差しのべ方

- ◆ 地域の生き方の考え方
- ◆ 知恵の提供
- ◆ 外とのつながり

地域創生を巡る現状と問題

現況

〇時代が右肩下がりとなるなかで、地域の活性 化・再生等は喫緊の課題。各地域において様々 な取組みが展開

〇しかしながら、その取組みの経験や実践から 獲得される「秘訣」「反省」「教訓」「段取り・やり 方」等は、関係者個々人のなかに埋没。

これらの真髄的な急所が、的確に思索が加えられ、「文章化」「言語化」「図表化」され、他地区での実践に役立てられているような構図にはなっていない。

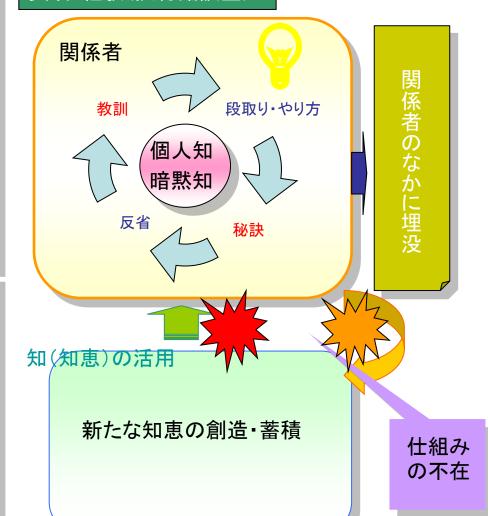
問題

〇各地域の実践·経験を通して知恵が創造されていかない。

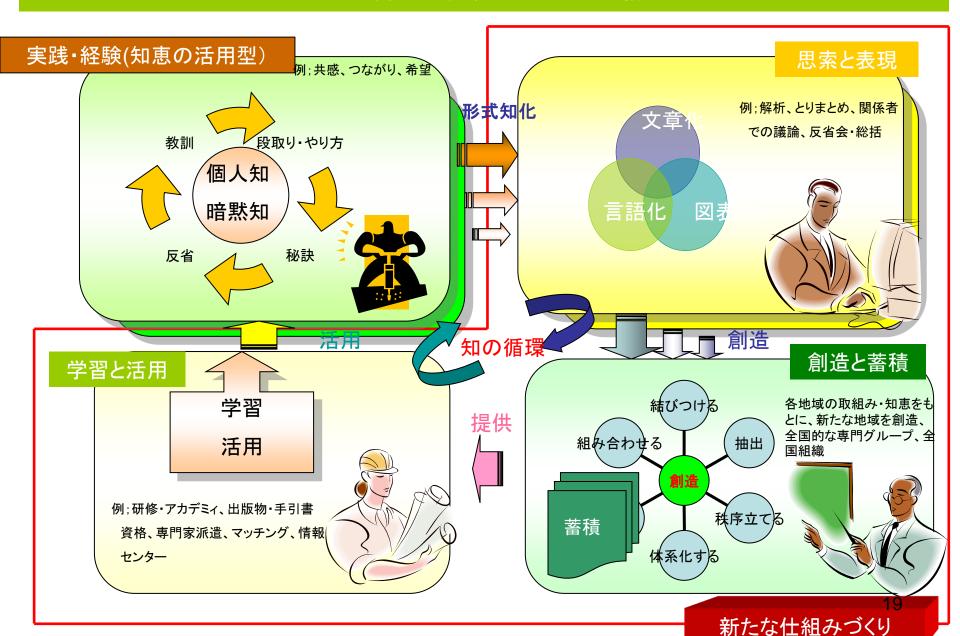
〇実践に際して、参考にしたり目安となる知識が提供されない。

Oこのため、各地域がそれぞれに試行錯誤 をせざるを得ない状況から抜け出せずにいる。

実践・経験(試行錯誤型)



知恵の創造と循環のシステムの構築



外部の専門家と地域とのコラボレーションによる地域の活性化

